

バラ栽培年記(1) 菱 孝

副題：バラ栽培は難しい、でも楽しい

1. 最初

バラ栽培を2014年に企て、冬に6本購入し、5本を地植えにしました。

きっかけは妻からの強い要請で、それにつられ、「その気になった」というものです。

最初は妻の気に入ったバラを「バラの通信販売カタログ」から選んで購入しました。大体、色や花形が気に入ったものを選び、なかには香りの強い品種も選びました。その後も、店頭や雑誌などで気に入った品種があると買い求め、次々に増やしてきました。

最初の購入品の6本は、フェンスのつるバラを主として手配しました。

フェンス用のツルバラが4本で、バフビューティ(写真1)、パルフェタムール(写真2)、つるマダムヴィオレ(写真2)、ナエマ(写真2)、鉢植え用のシュラブ/ツル性のバラ2本がニュードーン、しずくです。



写真1 バフビューティ (香りは中)



写真2 パルフェタムール (香りは微)



写真3 つるマダムヴィオレ (香りは微)



写真4 ナエマ (香りは超強)

撮影：2021年5月10日

最初の年は、樹勢を強くするため、花数を抑えて栽培しましたが、2年目は本来のツルバラとして花を觀賞しました。花も沢山咲いてくれました。感激！でも、この中で、つるマダムヴィオレに問題が二つ発生しています。花はとても綺麗なのですが……、一つは黒星病に弱く、5月末からあつという間に葉に黒い斑点が出て、そのうちに黄色くなり全て散ってしまいました。一つは花数が少ない。これには困惑し、そして悩みました。土づくりはバラの本に書いてあるとおり万全のはずですが……葉が全て散ったのは……病気対策の薬剤散布を全くしなかった。これが原因らしい。その後、花を咲かせる方法を工夫し、七年目の今年はとても見事に咲いてくれました。その工夫は次回以降にお話しできれば、と考えています。

2. 黒星病とは・・・

栽培において、黒星病対策は、バラを雨にあてず、水やりのときも葉に水をかけない。こうすれば大丈夫と言われていました。これは、露地植えでは不可能です。

黒星病は、カビの一種の糸状菌の胞子が葉に住み着き葉の細胞を侵していき、ついには乗っ取る。葉は黄色くなり光合成ができなくなり、また他の葉に病気がうつることを防ぐため、これを察知したバラは自衛策として葉柄から切り離す。これが「落葉」という現象と云うそうです。

黒星病の糸状菌はいたるところに（空气中・地中・地面の表面にも）存在しています。一方、バラの葉は新葉段階には、ワックス分が葉の表面を覆っているためこの菌が付着しづらく、結果病気にもかからない。まるで新型コロナウイルス感染のように防御されていれば感染しにくいと同じです。でも、このワックスも時間の経過とともに剥がれて、防御が手薄になり、糸状菌が付着、そして黒星病になる。もう一つ、葉裏の気孔からも侵入します。これを防ぐのはほとんど無理！と自覚しました。

この糸状菌を繁殖させない防御手段、例えば新型コロナウイルスを防御する人間の抗体のような糸状菌防御作用が品種改良されたバラには欠けているか弱くなっている。二百年余（バラの改良は近代）の品種改良のなかで黒星病への耐性を失くしたそうです。原種のノイバラにはあったのに……華やかさを獲得した代償として病気への耐性を失ったとも表されています。

3. 対策としての薬剤等の散布

黒星病に対処するには、「防止薬」と「治癒薬」があるそうです。悩んでいる時期にバラ園で園芸技術員の方に聞きました。「黒星病が出なくするにはどうしたらよいでしょうか」と、答えは、「毎週薬剤散布するしかない」。専門家でもこれしかないようです。しかしながら薬害を調べると、人体への悪影響の大きさと、散布場所の菌類を殺す、即ち土壤の菌構成を破壊するという環境にも悪影響が大きいことが分かり、そのリスクを考えると、どうしても散布できないでいました。買ったものは死蔵しています。

次に環境にやさしい手段として、納豆菌や有効な菌類液を購入し毎週散布をして黒星菌を増やさない方法を選択しました。私としては、「仕事」として毎週しっかり散布しました。しかしながら、手間をかけたわりにやはり「黒星病は盛ん」、そこで、……諦めました。

4. 思考方向を変える（諦める）

ところが、もう一つあったんです。

「黒星病に強い品種を選ぶ」という方法です。こういう手段もあったんです。

5. そういうバラはあるのか

そこで、選択を「病気に強いもの」、にすることにしました。要は、環境汚染防止を考えれば、「無農薬栽培」であり、「黒星病に強い品種の選択」これしかない！結構あります。特に2000年代以降の新品種はこういうものが多いようです。勿論古い品種の中にもあることがわかり手持ちのバラを耐病性から見直すと、つるマダムヴィオレは弱いと評価されていました。「やはり！」という結果でした。

6. 新たな選択基準

我が家のバラの再評価を行い、可能な場合、耐病性のある品種に植え替えを行うことに決心しました。今では、第一選択：ほとんど黒星病にかからない。第二選択：多少黒星病にかかるが年間通して持ちこたえて花を咲かせてくれる。こういう品種に選び直しています。この基準では、「つるマダムヴィオレ」は適合しませんが、強健で花が綺麗なため、「一季咲」とあきらめ、春の花だけを楽しむことにしました。

ここで気が付いたのは、販売サイドの耐病性評価と我が家での栽培実績に違いがあることもわかりました。バラが元気に花をつけるには、耐病性だけでなく、苗の強さやそのバラの強健さや植え場所の土壤の性状や土壤中の害虫などが総合的に強く影響しているようです。バラの栽培は難しいものですね。

7. 今では、そしてこの後は

今年の春の花が終わり、梅雨の今はポチポチと咲いてくれる花を楽しんでいます。今では40本を超えています。土づくりやバラの選定や現在の栽培状況については、ポチポチとご報告させていただきます。

「バラ栽培は難しい」ということを実感しています。でも楽しいですよ。